



# 緊急特別展 感染症 世界大流行の歴史

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的な大流行を起しており、収束は不透明な状況です。人類は、有史以前から恐ろしい感染症と闘い続けてきました。中でも天然痘、ペスト、梅毒、スペインかぜは、人類が滅ぶかもしれないほどの世界的大流行をしました。本展では、人類が目に見えない敵である感染症とどのように向き合い、闘ってきたのか、その歴史と野口英世が感染症と闘い、人類に貢献した姿を紹介します。

開催期間：令和2年7月16日～令和3年3月18日（予定）

開催場所：野口英世記念館 1F 展示室

※野口英世記念館の入館料でご覧いただけます。



ラムゼス5世のミイラ



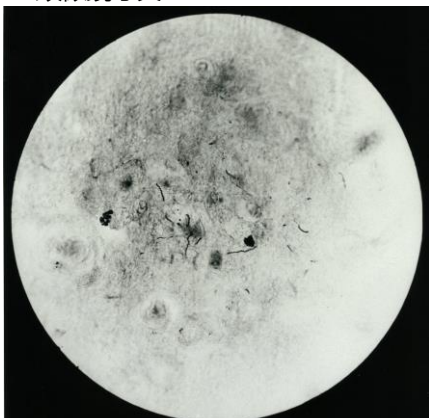
ペストで生き倒れた人々を描いた絵画



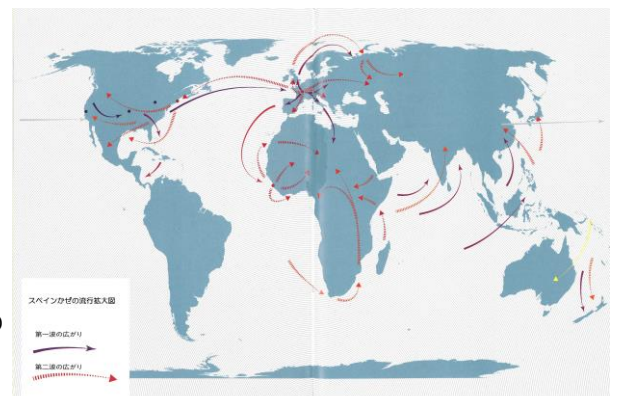
天然痘（古代エジプト王朝ラムゼス5世の死因でもあり、1980年のWHOの根絶宣言まで長く流行し続けた）

ペスト（別名黒死病。3回の世界的大流行が記録されている）

トレポネーマ顕微鏡写真



スペインかぜの流行拡大図



梅毒（野口英世の研究業績の中で最も評価が高い研究。現在も続く闘いである）

スペインかぜ（英世の母シカの死因でもあり、世界総人口の約1/4が死亡した）

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という新たな歴史に直面している今だからこそ、興味深く見ていただける展示です。

（問い合わせ先）公益財団法人野口英世記念会 広報担当 野口 由紀子

TEL 0242-85-7867 FAX0242-23-7122 E-mail : y-noguchi@noguchihideyo.or.jp